

2000年5月、初めて留守番電話・FAX・Eメールで子どもの声を受け付けたときに寄せられたFAXです。「子どものことは子どもに聞こう」子どもたちがチャイルドラインの存在意義を理解してくれたことを示すメッセージとして、私たちはこの文章を繰り返し読んでいます。

私は、大人の人全員に言いたい事があります。

それは、「私たち、子どもの話を最後まで聞いてほしい」です。

大人の方は子どもたちの話をゆっくり聞かず、自分の気持ちだけで動いているような気がします。

たとえばいじめ。いじめは、いじめに関わっている人全員の責任だと思います。

いじめる側も、いじめられる側も、それを見て見ぬフリをする人たちも、そして、先生や親も悪いんです。

先生は、1学期の初めには「いじめのない、仲がいいクラスを作りたい」と思っているはず。いや、思わない先生はいないでしょう。

そのためにはやはり、子どもたちとの話し合い（コミュニケーション）の場が大切だと思うんです。

ふだん、大人と子どもの話し合いがきちんとしていれば、いじめはなくなると思うし、いじめがあったとしても、早めに対策が練れると思います。

そして、いじめる側ばかり責めたって、どうしようもないと思います。そのいじめる子も、何らかの不安なやみ、ストレスからいじめにはしるという子や、そのいじめられる子となんらかのトラブルがあって、その腹いせになど。

もしかしたら、いじめられる子が悪いこともあると思います。いじめられる子の話ばかり聞くのではなく、いじめる子の話も、ゆっくりゆっくり聞いてほしいと思います。

子どもだって人間です。いいたいことだって大人ほどたくさんあると思う。やりたいことだってあると思う。これを素直に受け止めてあげられる人が真の「大人」だと思います。

とにかく、言いわけでも、グチでも、楽しかったことや、苦しかったこと、私たち「子ども」の話を最後まで聞いてください。聞いてくれる人がいるだけでも、すいぶん心がちがいます。また、子どもからおそわることがあるだろうし、世界が無限に広がると思います。

私たちから、目をそらさないで下さい。

私たちは、いつもあなたたちのことをみえています。

わたし  
「子ども」の話を最後まで聞いてくださり、ありがとうございました。  
中学3年生 女子



◇ チャイルドラインみやぎはチャイルドライン実施のほかに・・・

・子どもたちの声に耳を傾け、子どもや若者をサポートする人材「子ども・若者サポーター」の養成に取り組んでいます。毎年講座を行い、電話・チャットの受け手、社会的養護の子どもたちへの支援、子どもの権利擁護のための研修やイベントを行う際に活躍していただいています。

・児童養護施設など社会的養護のもとで過ごした子どもや若者への支援を行っています。施設に入所中のお子さん、里親に委託されているお子さんについてのご相談、施設等から自立する若者の進学・就職、居住に関することなどのご相談も受け付けています。

・子どもの権利についての啓発活動や虐待防止活動を行っています。

<p>◇チャイルドラインは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・18歳までのひとがかける電話</li> <li>・なにを話してもOK</li> <li>・フリーダイヤルなのでお金はかかりません</li> </ul>	<p>◇チャイルドラインの約束</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひみつはまもります</li> <li>・なまえはいわなくていいよ</li> <li>・どんなことでもいっしょに考えます</li> <li>・お話をとちゅうでやめてもOK</li> </ul>	<p>◇皆様へのお願い</p> <p>子ども・若者の幸せのために、チャイルドラインみやぎと一緒に活動して下さる方、ご寄付など資金面で支えて下さる方など、ご連絡をお待ちしています。HP上、または下記連絡先にアクセスをお願いします。</p>
<p>チャイルドラインは 全国どこからでもフリーダイヤル!! 電話番号は 0120-99-7777 受付時間 毎日 午後4時～9時</p>		<p>発行：特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 〒981-0954 仙台市青葉区川平 1-16-5 スカイハイツ 102 TEL・FAX：022-279-7210（平日10時半～17時半） E-mail info@cl-miyagi.org HP http://cl-miyagi.org/</p>

# 子どもの声つうしん



発行 特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 2023年11月6日 <第12号>

チャイルドラインとは

1986年イギリスで子どもへの虐待防止を目的としてできました。日本に紹介され、子どもたちのいじめや自殺などが問題になっていた1998年、世田谷で始まりました。宮城県では2002年に開設。現在全国で67団体、約2,000人のボランティアが年間約18万件を受信しています。

チャイルドラインみやぎは

子どもの声を聴き、子どもの権利を大切にし、子どもが生き生きできる社会づくりを行います。

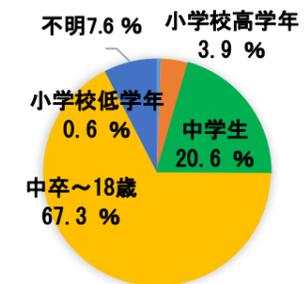
## チャイルドラインから見える宮城県の子どもの現在

宮城県の子どもがかけてきた電話のうち会話が成立した1,252件についての分析  
(宮城の子どもが発信し、全国のチャイルドラインが受信してデータベースに入力したものを分析)

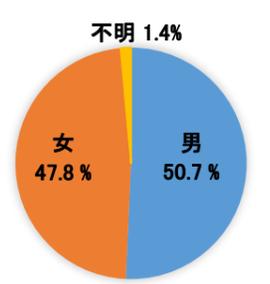
◆年齢別・性別

年齢別	件数	%	昨年度件数
小学校低学年	7	0.6	17
小学校高学年	49	3.9	44
中学生	258	20.6	229
中卒～18歳	843	67.3	640
不明	95	7.6	49
合計	1,252	100	979

年齢別 N=1252

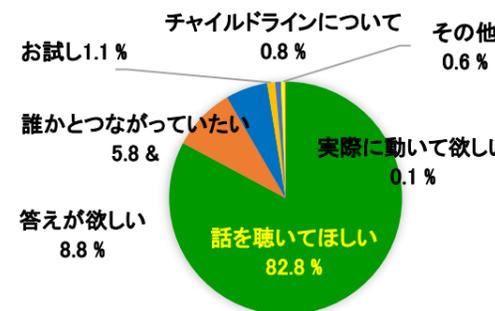


性別 N=1252



性別	件数	%	昨年度%
男	635	50.7	75
女	599	47.8	24
不明	18	1.4	1
合計	1,252	99	100

動機 N=1252

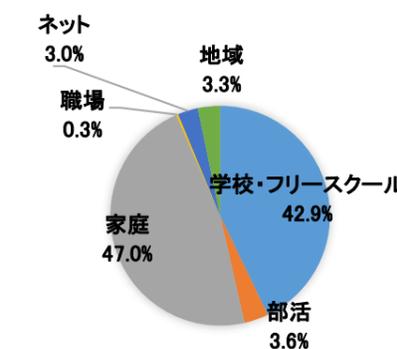


年齢別では中学生以上が昨年度に比べ232件増加しました。男女別では例年男子が多く、昨年度は75%でしたが、2022年度は男女ほぼ同時になりました。かけた動機については、例年と同様「話を聞いてほしい」が80%を超えています。

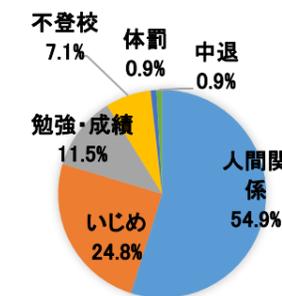
環境別では例年と同様、家庭の問題と学校・フリースクールでの問題が多くなっています。学校・フリースクールで起きていることの内容としては、2021年度いじめが12%だったのに対し、2022年度は25%に増加しています。家庭での問題では、虐待・暴力が30%から40%に増加しており、注意が必要です。

◆環境別の内容について

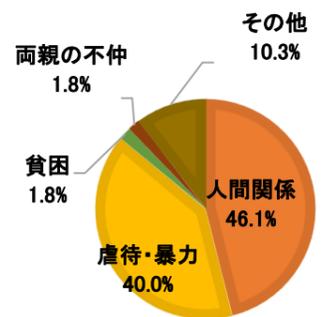
環境別 N=336



学校・フリースクールで起きていることの内容 N=113



家庭での問題の内容 N=165



## 宮城県・仙台市の子ども状況

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果（文部科学省初等中等教育局児童生徒課）」資料により作成（毎年文部科学省が調査している上記の資料から、宮城県と仙台市の子ども令和4年度・3年度のデータを掲載しました。）

宮城県・仙台市の1000人当たりの発生数は、宮城県不登校中学生、仙台市不登校小学生を除き、すべての項目で全国平均を上回っています。発生数も令和3年度よりほとんどの項目で増加しています。暴力行為は県、仙台市とも多く、いじめは仙台市で全国平均の倍になっています。不登校は県での発生が多くなっています。この状況を変えるにはどうしたらよいのでしょうか。子どもたちの未来のために皆で考え合しましょう。

宮城県全体（順位・平均は48都道府県のうちの順位と平均）

項目	令和4年度				令和3年度				
	発生数 認知件数	1000人当たりの発生数		全国順位	発生数 認知件数	1000人当たりの発生数		全国順位	
		宮城県	全国平均			宮城県	全国平均		
暴力行為(小中高)	2,605件	11.3	7.5	11位	2,303件	9.9	6.0	7位	
いじめ (小中高・特別支援学校)	14,644件	62.7	53.3	15位	14,783件	62.9	47.7	10位	
不登校	不登校(小)	2,066人	18.5	17.0	9位	1,649人	14.6	13.0	10位
	不登校(中)	4,122人	70.0	89.5	3位	3,569人	60.1	50.0	2位
	不登校(小・中)	6,198人	36.3	31.7	6位	5,218人	30.3	25.7	2位
	不登校(高校)	1,552人	28.5	20.4	3位	1,554人	27.9	16.9	2位
◇暴力行為 発生数+1,302、1000人当たりの発生数+1.4 ◇いじめ 発生数-139、1000人当たりの発生数-0.2 ◇不登校(小)発生数+417、1000人当たりの発生数+3.9、不登校(中)発生数+553、1000人当たりの発生数+9.9で共に増加 不登校(小・中)では発生数+980、1000人当たりの発生数+6.0で共に増加 ◇不登校(高校)発生数-2、1000人当たりの発生数+0.9									

仙台市（順位・平均は政令指定都市20市のうちの順位と平均）

項目	令和4年度				令和3年度				
	発生数 認知件数	1000人当たりの発生数		全国順位	発生数 認知件数	1000人当たりの発生数		全国順位	
		仙台市	全国平均			仙台市	全国平均		
暴力行為(小中高)	1,253件	15.6	10.1	5位	1,311件	16.3	8.8	5位	
いじめ (小中高・特別支援学校)	11,871件	147.1	66.1	2位	12,271件	152.3	56.1	2位	
不登校	不登校(小)	825人	15.9	18.2	16位	714人	13.8	13.8	10位
	不登校(中)	1,742人	67.9	65.0	8位	1,504人	59.0	54.4	6位
	不登校(小・中)	2,567人	33.1	33.1	11位	2,218人	28.7	26.7	7位
◇暴力行為 発生数-58、1000人当たりの発生数-0.7 ◇いじめ 発生数-400、1000人当たりの発生数-0.7 ◇不登校(小)発生数+111、1000人当たりの発生数+2.1、不登校(中)発生数+238、1000人当たりの発生数+8.9で共に増加 不登校(小・中)では発生数+349、1000人当たりの発生数+4.4で共に増加									

## 虐待の増加

最近、チャイルドラインだけでなく、チャイルドラインみやぎ事務局にも、虐待されている子ども本人からのアクセスが続きました。

チャイルドラインに2022年度にかかったみやぎの子ども虐待に関する電話は右の表の通り66件、うち54件82%が性的虐待に関するものでした。一方宮城県の性的虐待の相談件数が20件しかありません。

性的虐待は家庭の中の出来事が多いため周囲に気づかれにくく、この件数は氷山の一角と考えなければなりません。

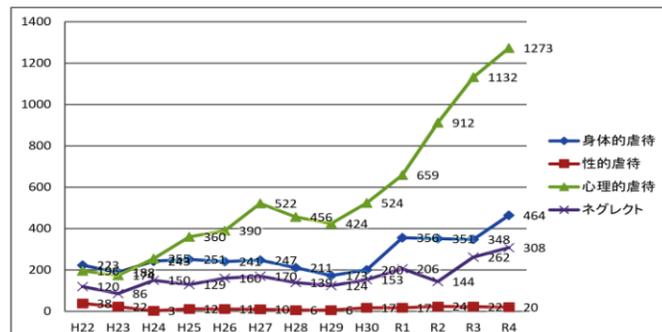
2022年度チャイルドラインへの虐待関係電話件数

性的虐待	54件	81.8%
身体的虐待	7件	10.6%
心理的虐待	5件	7.6%
計	66件	100%

### 宮城県の年度別虐待相談対応件数

宮城県児童相談所の虐待相談件数は下の表と右グラフのように増加しています。

種類	身体的虐待	性的虐待	心理的虐待	ネグレクト	合計
R3	348	22	1132	262	1764
R4	464	20	1273	308	2065
R4/R3	133.3%	90.9%	112.5%	117.6%	117.1%



## 虐待による子どもへの影響

「児童養護施設に入所している子どものうち7割、里親に委託されている子どものうち約4割、乳児院に入所している子どものうち約4割は虐待を受けた経験があり、児童養護施設に入所している子どもの36.7%、里親に委託されている子どもの24.9%が何らかの障害を持っている」というデータがあります。

2007年、杉山登志郎氏が「子ども虐待という第四の発達障害」を著し、虐待が子どもの脳に与える影響を指摘しました。現在では「愛着障害」として研究が進んでいますが、発達障害と見られて学校現場などで誤った対応をされている子どもたちも多くいると言われています。

子どもたちに深刻な影響を与える虐待を早期に発見し、支援をしていくことが望まれますが、SOSを発することは子どもたちにとっては難しいことです。

### なぜSOSを発することができないのか

「親や先生に言えないけれどチャイルドラインになら話せる」と言う子どもたちの本音は・・・

- ①言ってもしょうがない（相談しても解決しない）
- ②信じてもらえない（決めつけられる）
- ③はずかしい（子どもにもプライドがある）
- ④心配をかける（親や先生は忙しそう）
- ⑤おおごとになる（かえって自分が不利になる）
- ⑥叱られる（訳も聞いてもらえない）



そのため、「解決しなくても誰か聴いてくれる人がいるだけでいい」と思ってしまう子は多いのです。

しかし「その家に生まれた不幸」と済ませていいのでしょうか。

虐待によって苦しむ子どもがなくなる社会をめざすために、おとながやるべきことは？

子どもの様子を よく「見る」 話をよく「聴く」 適切なおとなへ「つなぐ」

### 「聴くこと」は最高のプレゼント

子どもたちはもともと生きる力を持っていますが、何らかの障害でその力を発揮できないことがあります。その障害を取り除くことで、また力を発揮することができます。

支援とは、その人の内なる力を引きだし（エンパワメント）、その人が自分でその障害を取り除く努力をすることに寄り添うことです。児童相談所の一時保護所や児童養護施設に「子どもアドボケート」を導入して、子どもの意見を聴こうとする動きが広がっています。「子どもの声、子どもの意見」を聴くことを提唱してきた日本の「チャイルドライン」は、20年以上前から「子どもアドボカシー」を実践してきたといえます。

- 話をよく聴いてもらった → 自分のことを理解してもらった、受け入れてもらったと感じる
- コミュニケーション能力を高める → 「自分はひとりではない・自分は大切な存在である」と感じる
- 自尊感情を高める → 自信を持つ → 困った時に相談する・SOSを発する力を育む
- 子どもたちの生きづらさを軽減する → 孤独・孤立を防ぎ、自死の予防にもつながる。

### 「聴く」ときに心がけること

チャイルドラインでは規定の研修を受けたボランティアの「受け手」が子どもの声を聴きます。

多くの経験をしているおとなは、つい子どもたちにアドバイスをしたくなってしまいがちですが、研修ではこんなことに気をつけています。

- ・子どものペースに合わせる
- ・話しやすいなずきや相槌を工夫する
- ・さえぎらずゆっくりじっくり聴く
- ・無理に聞き出そうとしない
- ・判断をもって聴かない
- ・まずは大人の意見を言わずとにかく聴く
- ・否定や説教をしない
- ・その子がなぜそう考えたのかを想像する、ただし先走らない
- ・子どもが自分で考え自分で結論を出すのを待つ
- ・子どもの結論を尊重する（たとえそれが大人から見て心配があるものでも一度受けとめる）

☆子どもたちは失敗を通して成長します。

子どもたちにとって、命を落とすこと以外、やり直しのきかないことはありません。

「あなたが決めたことを応援するよ。でももうまくいかなかったらまたかけてね。」と伝えます。

### よく「聴く」ことが「見る」ことにもたらす影響

「聴く」ことを通して、見えないものを想像する力が育ちます。目の前の現実の子どもだけでなく、その子が見えない部分を想像してください。小さい子の変化は気づきやすいのですが、思春期の子たちは気づかれにくいように細心の注意を払う傾向があります。笑顔の陰の表情をみおとさず、気になることがあったらさりげなく話しかけてください。



### つなぐ

虐待通報は「189（いちばやく）」 DV通報はとりあえず「110」

子どもに関わる大人として子どもの権利を尊重してください。